

平成 27 年度第 1 回倉吉市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 27 年 5 月 28 日 (木) 午前 11 時
- 2 場 所 倉吉市役所 市民応接室
- 3 出席者 石田市長
教育委員会 5 人
藤田委員長 宮近委員
仲田委員 福井委員
福井教育長

会 議 の 経 過

- 1 開 会 午前 11 時
- 2 市長あいさつ
- 3 教育委員長あいさつ

4 協議事項

(1) 倉吉市教育に関する施策の大綱について

教育総務課長 (資料に沿って説明)

市長 最後のところ、28 年度に新しい大綱を策定とあるが、28 年度にスタートするのであれば、27 年度に作らなくてはいけないのでは？

教育総務課長 市長が言われたように、第 2 期教育振興基本計画を今担当課が集まって作っているのですが、それをもとに大綱を 27 年度中に策定する予定で考えている。

市長 細かいことだが、5 ページの社会教育のところ、鳥取大学や、看護大学、短大、とあるが、環境大学も入れてください。

それから幼児教育、保育所・幼稚園と小学校の連携が書いてあるが、小学校と中学校の連携が、その辺のところには保育園・幼稚園小学校中学校の連携と書いてあるが、それはここには表現がないと思ってみるが。小中一貫校の話も出たりして、小中の連携というのも大事ではないかと思うがどうか。

教育長 現実的には、学力向上の中で小中連携を取り入れている。例えば成徳小学校と東中学校とで教員を一人配置してモデル的に行っているところもあるので、独立させて重点項目の中に入れてもいいかと思うが。

市長 独立させなくてもいいとは思いますが、中高の連携もやっておられるから入れておくということはあるんだけど。

教育長 そうしたものも含めて学力向上だけには入らないかもしれない。

市長 やはり学力向上はひとつの焦点になっているので。それから今年は地方創生の総合戦略の策定作業を始めていて、教育の分野でも人づくりという面で非常に大事なところになってくるので、そちらの作業の状況、あるいは提言内容も、次の28年度の大綱には整合をとって盛り込んでもらいたい。よくそちらと調整しながらやっていくように。

かなり小中一貫校みたいな意見も出てくるのではないかと、そういうのも考えていかないといけない時代かと思っている。基本的な流れはこれでいいのではないかと思う。

教育長 5年間で十分出来てきたところもあるが、やはり不登校という大きな課題があり、これは引き継いでやっていかなくてはいけないと思っている。重点施策の③の豊かな心で考えてきているが、もう少し特出ししていく必要があると思う。

市長 具体的にどういう取組をするのかというところが必要。

教育長 先程委員長もおっしゃったが、親、あるいは一人前の社会人となっていくための道筋、学びをどの場面でやっていくのか、小学校、中学校では、赤ちゃんのふれあい会というのを実際やっているが、現実の親になっていくところにもう少しステップを詰めていく必要があるのではないかと考えている。

委員長 段々とそういう家庭が増えつつある印象を、経済的にもすごく厳しい相談があったりして、奨学金が受けられるかといった悲痛な話を聞くと、格差は目に見えて広がるように感じる。

市長 充実すると書いてあるけれどもどういうふうに充実するのか。貸与型と給付型の奨学金があるが、使う人にとってみれば、給付型の方がいいだろうが、その辺は、財政的な限界もあるのだから、どこまでやるかという辺り。いろんな奨学金が出来てきているから、なかなか一般の人にとっては、わかりづらい面もあると思う。

委員長 学校が子どもたちに説明して下さる？

委員 高校に入るときに、説明がある。親の方がそういう制度をきちんと理解していなかったり、いろんな制度があるが、そこにたどり着かない親が多いのではないか。そうすると幼児教育もだが、幼児を育てる親を何時の時点から教育していくかということがもっと大事になる気がする。

委員長 案内は3月より、もっと早く奨学金の知らせは来ているのですよね？

教育長 そうです。

委員 高校に進学するか進路をどうするか、というときに奨学金の話聞いた。

委員長 それがないと高校にやれないと言っておられる。

市長 格差はこれだけで解決できない。それをどうカバーしてやるかということを考える必要があると思う。ここでも重点施策⑥とか⑦とか家庭との問題として出ているので、では、具体的にどういうふうにして成果を上げるのかという

ころだと思ふ。

教育長 小学校、中学校のPTAと教育委員会と、もう少ししっかり教育について考えていくような会も必要ではないかと提案し、やっていこうという話し合いは進めている。単発でやるだけではなく、講座のようなものの中でワークショップの形でやるとか、そういった場面が必要だと思う。

委員 PTAに来る人はいつも同じメンバー、保育園も同じだが、親がいろんな情報を得て、今何が問題なのかわからないと、つい行かなくても済んでしまうことも多いと思う。やはり学校に、講演会に出席する機会にどうやって来てもらうか。来ない人はいつも来ないといった傾向が前より広がってきているような気がする。

委員 聞いて欲しい人が来られない、という意見が毎回出ている。

委員 本当にいろいろな事件が、若い人がかかとなって人を殺したりする事件がニュースで目につく。さっきから出ているように幼児教育だったり、個々の世帯が多いし、そういうところも大きな問題になっているひとつの原因かと感じる。どうやって、問題意識をともに考えて、何でいくかというのが、子どもを持つ親としては責任があるし、そういうところに仕掛けていく、造作というのが大切なのかなと感じる。

委員長 1週間前か、新聞で見られた方ありませんか、PTAは要らないという、PTAが弱体化してというか、変わりつつあると改めて思った。

市長 この間インターネットのニュースで、何ていう人か覚えていないが1年間子どもの関係でPTAに関わって、正直PTA活動は嫌だった、けどPTAはやっぱり必要、ということを書いていた。言い得て妙なんだけれども、関わる人にとって非常に大変で苦痛だが、やはりその存在というのは、必要なのだろうと、それなりに役割を果たしているのだと思う。

委員長 そういう考え方が段々と広がりつつある。自分の子は自分で教育機関で育てたらい、というようなスタンスになりつつあるのかもしれない。

委員 関わらなくて済むものは関わりたくないというのが基本にあって、誰かがやってくれるだろうと、公的機関がやってくれるから個人が出なくてもいいといった人任せで、それでも暮らしていけてしまう。本当に自分の気のあった人、我慢なくても過ごせる人としか過ごさない。我慢してもこれは役だからやるとか、社会を運営していくためには皆が義務としてやらなくてはいけないという感覚が全然なくて、やりたくないからやらないという感じがある。昔は村の中で必ず役があって、気に入らないお隣さんとでもなんとか我慢しながら社会を作っていくという形があったが、今は自治会にも入らない。言われたように、2世帯3世帯の同居であっても、個で暮らしているので関わらずに済んでしまう。社会の中で自分の果たす役割という意識が全くなく、社会性が全然育っていない人たちがすごく増えている気がする。

市長 だから学力ではないところで、人間教育というか、コミュニケーションを育

てるような、あるいは社会的な責任を果たす責任感みたいなものを身につける、その辺にかなり力を入れていかななくてはいけない。委員長が冒頭のあいさつでおっしゃったような赤ちゃんの殺人、あの事件など育ち方にいろいろ問題があったんだろうという話は当然出るが、ではその子どもを育てた親の教育はどうだったという話になって、結局はあらゆる世代についてそういう教育をしていかなければいけないだろうと思う。だから学校教育でも、社会教育、生涯学習でもそうだし、それぞれの場面で人間教育みたいなものの充実を全体としてやって行かなくてはならないのではないか。一度に何もできるわけではないので、まずは学校教育の場面でどういうことをやっていくのか、もう少しよく考えていかなければいけないだろうと思う。やはりベーシックな教育の部分で、そういう教育を地道にやっていくしか結果的にはないのかという感じ。委員さんがおっしゃったように複数で生活するよりひとりの方が楽、ストレスがかからない。楽な方、楽な方になってしまうという今の風潮というのを、どこかで責任があるのですよというふうに。

委員 学校教育の中で言えば、今圧倒的に体験が少ない。人とぶつかり合う体験とか、意見が違ったりとか。教育が出来るところと言ったら学校教育の中でいろんな体験をさせるという事、小さい子の体験も、お年寄りの体験もそうだし、実際ずっとやっておられる（赤ちゃんふれあい会）が、それにしても単発。やはり体験部分を厚くするとその辺も変わってくるのではないかと。

市長 やはり家庭、あるいは地域自体が変わってきているので、その社会環境が変わっている状態を踏まえた学校教育のあり方を考えていかななくてはならない。そういう意味では学習指導要領も変わらないといけないと思う。

教育長 学習指導要領もおそらくこの6月くらいに向こう10年のものが出てくると思う。グローバル化ということだが、今おっしゃったことを学校教育の中で全てやるかということ、もうパンクの状態。例えばいろいろな体験というのは今まで社会教育が担ってきた。私たちもお手伝いしながらやってきたところが欠落してしまっているという、だから社会としてどうやっていくかという観点があるのだろうと思う。そういった意味では地区公民館の運動会に最近では中学生がずいぶんとお手伝いをして、開会式や閉会式に皆から拍手をしてもらい、そういう経験というのはものすごく大事だと思うし、増えてきた。

委員長 仕事を通じてだが、自分の身の始末を、子どもに世話にならないようにしたいという親に、今社会がなくなってしまっている。社会と関わらなくても自分で完結してしまう、そういう社会にじわじわこう、舵が取られてなっているという具合に思う。どういうふうにみんなで支え合い、関わりあっていく社会をもう一度取り戻していくか、どうしたら出来るのかというのが、それが地域の教育力かもしれないが、みんなもう少し真剣に考えて、もう少し関わりを持つことをしていかなければいけない。

委員 アメリカでチアリーダーをやっておられる方が、アメリカではチアの練習だ

けでなく、地域貢献、ボランティアなど、地域と関わるというのも組み込まれていると話をされていた。スポ少でも、地域貢献の日を入れたり、部活でも野球部などがやっているが、全部の部活で地域貢献を部活のひとつとして取り入れるとか、必ず地域貢献の場を作るという仕組みを作っていないと、そういうところに出て行く機会を失ってしまう。そういう仕組み作りがあったらいい。

委員

実はこの前鳥飼家を使って、実際昔の羽釜に火をつけてお茶作りを体験した。普段そういう体験をしていないから、やっている子どもの目が生き生きしていた。そういう普段触れないような体験を経験させるのは、すごく大切なことだと思う。やはり、豊かな心を養い、というのは読書などが基本にあって、いろんな生活の身近な体験、あらゆる体験を通して心が豊かになると、教育目標のところはとったのが。

教育長

これ（の基となった教育振興基本計画）を制定したときにその解題を入れている。ここは端折っているが、やはり倉吉の豊かな自然、豊かな文化・伝統、こうしたものを通してながら様々な経験をしてくれしかったり、楽しかったり、悔しかったり、そういったものが全て豊かな心となっていくのではないかと、そういったものを培っていきたいということなので、同じです。

委員

今の社会、前向きな人はいろんな情報を入れようとするし、いろいろ行ってみたりされるが、後向きな方にどんな情報を与えても見えない、見ようとしなない、知らなかった、聞いてなかったと、それはもう親としての責任になる。しなくてはいけないと、何かするっていうことをしないと、教職員の多忙化ということもあるし大変だと、どこかで線引きをしないといけない。必要なことであることを分かってもらって何かをしなくてはいけないと思うが、今までのやり方ではいけないのではないかと。後ろ向きの人に見える何かをしなくては、という感じがする。

市長

行政は、テーブルの上に材料を並べることは出来るけれども、口を開けて押し込む訳にもいかないの、食べるか食べないかはやはり本人の選択ということになる。そこは難しい。

委員長

孫がいるが、ゲームしているときが一番楽しいんだろうけど、コミュニケーションは必要ない。これを受け入れながらもなんとか子どもをきちんと育てていかないといけないという難しい課題。本当、黙っていて、子どもたちは楽しんでいる。コミュニケーション能力も何もない。そうすると伝えられなかったら腹が立って殴るとか。どうやって、話を相手に伝えたり受け止めたりする力をつけさせるようにやったらいいのか。でも避けては通れないし、それを両立させる方法、それこそPTAと一緒にしっかり考えていかないと。学力にも影響する大きな問題だなと思う。

市長

昔ゲーム脳という言葉がはやった時期があったが、前頭前野からものを考えるところを通らずに行動させるところに指示がいつってしまう。そういう脳構造になる。目から入ったものが、すぐに指に行く。考える、思考する回路を通ら

ないようになってしまうという話を聞いたことがある。そういう状態の子どもが増えてきている。

教育長 おっしゃるようにこの間のテレビじゃないが、高所恐怖症が普通だけれども、高所平気症。高いところは怖いという認知は5歳までに出来てしまうらしいが、高層マンションで育っていると平地の感覚で、上に上がっても怖いと感ぜない、で転落してしまうと報道していた。やはりそういう生活環境と繋がると思う。

長崎の子どもが殺した事件があったが、人間は生き返るかというデータを取ったときに長崎市内の子と島の方の子との差があり、やはり身近に「生きている・死ぬ」を見聞きしているところは、生き返るということはないという子が多いと、ゲームでリセットというのがあると。まさにゲーム脳と一緒に思う。

委員 死というものが、ゲームとかドラマとかの中だけで、一切の死を見ていない。特に今は死ぬときも病院で、そこに至る過程を見ないので、死というものが全然ピンと来ないのだと思う。

教育長 やはり体験。それをどう保障していくかということ。

委員長 学校に持って出ること無理、学校の先生は多忙です。

市長 ここで結論は出ないが、これは次期計画のひとつの課題としてまた議論する事になると思う。でも大事なところ、今の時代にやらないといけなところだと思ふので、重要な課題として捉えたい。では大綱については、基本的にはこれを大綱として定めるということによろしいですね？

各委員 (承認)

(2) 倉吉市立小・中学校の適正配置等について

学校教育課長 (資料に沿って説明)

教育長 校名もだいたい絞りこんできている。

市長 どんな方向に？

教育長 今あがっているのが、倉吉市関金町ということで、現在の漢字の「関金小学校」、それから、統合したということになら関金は残したいけれども、現在の関金小学校のイメージをされてしまうのでひらがなで「せきがね小学校」、それからもうひとつは、鴨川中学校があるので、「鴨川小学校」、この3つに絞られた感じ。議論を聞いていた中では、やはり倉吉市関金町と共通にあるのだから関金というのがいいのではないかということだった。ただ山守地区からは吸収合併されたようだ、という意見はあった。校名は地域の皆さんに決めていただく。

市長 地域合意で決めていただければいいのではないか。あと、北谷・高城・社、これは選択肢として何でもあるだろうけど、よく地域の意向を尊重しながらやっていったらいい。成徳・明倫は？

教育長 比較的早くから協議はしていただいたが、一緒にならざるを得ないだろうというところまでは同意していただいたと。

市長 とりあえず耐震化の工事が済むので、両方とも、それを踏まえて議論するし

かない。単独存続とっておられるところは。

教育長 地域の中にはなかなか声が出せない、何とかしてほしいといわれる保護者もある。

市長 ドラスティックに子どもの数が減ってくれば、また違うと思うが。

教育長 ただ上小鴨地区も60人台という数字が見えたので、そういった現実を話していくこと、それから文部科学省から手引きが出たので、これを説明する形で踏み込んでいきたいと思っている。

市長 少し実感をしてもらいながら、やっていかないといけないかもしれない。しっかり取り組みましょう。

委員長 高城地区には説明に行っていたらいい？

教育長 自治公民館の会長さんには、みなさん方に諮ってもらえないかとお願いしている。北谷は2月に青少協を中心として説明申し上げた。そこと話をして、両方が一度に会うよう話を設けて、北谷・高城がこれだけでは足りないので、社も声をしましようという話になれば、社に持って行くところまでは聞いている。けれども、役員が替わられたので、新しい役員に説明するよう、明日7時半から社の自治公民館に出向く。

市長 社は受け入れる方だから異論はないだろうと思うけれども、北谷・高城で少し温度差があるような感じがする。どういう走り方をするのかよく状況をみてやらないといけない。

教育長 地区全体でそれぞれ協議したという経験がないので、なんとか早くそれを作りたい。

委員長 協議会の役員が1年で代わるので、学校の説明会に来ておられない方がなると、他は反対しているのに、なんで反対しないのかと、こういった意見が出てきたりしてしまう訳で、何回かまた説明に行かないといけない。

教育長 なんとかそこで両方が協議する場をどうこしらえるか。そのきっかけはこちらが地域学校委員さんにおいでいただき、このメンバーに誰か入っていただいて、話をするという形で持っていこうかと思っている。

市長 積み重ねて、いくしかないかもしれない。

教育長 微々たる動きですけども動いています。

5 閉会

市長 今年は次期計画に向けてのご意見をいただくことが必要ですので、是非よろしくをお願いします。ありがとうございました。

午後0時 終了